

令和4年度 第2回上野原市総合教育会議 会議要旨

1. 開催日時 令和5年2月27日（月）14：30～16：00
2. 開催場所 上野原市役所文化ホール棟1階 会議室1
3. 出席者
 - 【構成員】 村上信行市長、土屋すみじ教育長、降矢俊彦教育長職務代理、田村たえま教育委員、市村恵美教育委員
 - 【事務局】 市長部局：政策秘書課 佐藤課長、水越政策担当L
教育委員会部局：
 - 学校教育課：山口課長、井上教育総務担当L、佐渡学校教育担当L
 - 社会教育課：織田課長、川田社会教育担当L
 - 【欠席者】 なし
4. 会議内容
 - (1) 開会
 - (2) 市長あいさつ
 - (3) 教育長あいさつ
 - (4) 議事
 - 【1】 学校教育課
 - (1) 令和5年度山梨県学校教育指導重点について
 - (2) 学校給食について
 - 【2】 社会教育課
 - (1) 文化財常設展示施設の整備について
 - (5) その他
 - (6) 閉会

.....
【会議内容要旨】

(4) 議事

【1】 学校教育課

(1) 令和5年度山梨県学校教育指導重点について【土屋教育長】

[説明概要]

令和5年度山梨県学校教育指導重点について、資料に基づき説明。令和4年度指導重点の総括について、1人1台端末の効果的な活用や小中連携による効果的な指導の充実など、着実に推進している分野もあるが、課題の残る分野もある。令和5年度は、全ての児童・生徒が「未来の創り手となるために必要な資質・能力」を培うために、確かな学力の育成、豊かな心の育成、健やかな体の育成、学級経営の充実、地域や世界で活躍できる人材の育成、特別支援教育の推進を重点項目として取り組む。

[主な意見等]

・バランスをとった育成が大事ではあると思うが、個人的には豊かな心をまず育み、そのうえで確かな学力、健やかな体の育成が大事であると感じている。また、学級経営の充実については、WebQUの結果を活かしてもらえればと思う。子どもが将来にわたって学び続ける取組を、学校と地域が一緒になって進めていければよい。市内の児童・生徒の生きる力が育まれることを望む。

・特別支援を必要な子どもが増えていると感じている。コロナ禍の中で、地域で子どもを育てることが困難になっている。学校では、勉強が分からなくて問題行動に繋がるケースもある。子どもにとって、安全・安心の土台となる家庭が大事であると思う。昔は親が学べる場がもう少しあった気がする。子どもがすくすくしやすい環境を、皆さんで育てる地域にしていきたい。

・親同士で相談し合える機会や環境がなくなっていると感じる。これに対して、教育行政でできることはあるのか。

→先進的な取組では、CSに子育て中の親子を参加させているところもある。

・CSでの取組がもっと充実できればありがたい。

・育成会を始め、地域での行事が減っている。問題があっても共有できる機会が少ない。

→まだ立ち上がったばかりのところもあるが、CSの活用が大事であると思う。

・秋山地区では、無生野の大念仏の世界文化遺産認定や雛づる漬の生産中止に対し、学校でも何か取り組もうとなっている。そういったテーマがあることで、人が集まるきっかけになるのではないか。

→未就学の子どものお話になるが、子育て保健課ではペアレンツ教育や伴走型の支援、コミュニティ形成を支援していく事業が始まる。続けていけば、児童・生徒にも良い影響が出てくると考えている。

・県の教育指導重点や市の教育振興基本計画に基づき、教育委員会には具体的な取組の推進をお願いする。

(2) 学校給食について

[説明概要]

学校給食について、資料に基づき説明。第2期上野原市教育振興基本計画に基づき、心身の成長や健康の増進を図るとともに、食に関する正しい知識の習得と望ましい食習慣の形成につながるよう学校・家庭・地域と連携しながら、様々な食育の取組を推進している。具体的には、地産地消の推進に向けたSDGsだよりの発行やイベント給食等を実施している。また、他の取組として学校給食費の支援、給食施設に関する基礎調査も実施している。

なお、施設の概要は資料のとおりであるが、建築から20年以上が経過し、衛生管理や食物アレルギー対応、施設の老朽化が課題となっている。しかしながら、児童・生徒数は今後も減少の一途をたどり、令和10年には令和3年比25%以上の減少になると推測されるため、施設整備については集約化や複合化の検討が必要となる。

[主な意見等]

・今年度中学3年生の給食費の無償化を実施いただき、来年度はすべての中学校に拡大するということがありがたい。ちなみにアレルギー対応が必要な児童・生徒はどのくらいいるのか。

→小学校で55名、中学校46名、計101名の児童・生徒がアレルギーを持っている。その中で配慮・管理が必要となる児童・生徒は、小学校25名、中学校12名、計37名となっている。対応策としては、献立に含まれる該当食材の情報提供と、牛乳をお茶に変更する、配膳プレートの色を変える等を行っている。

・SDGsの取組も進んでいて素晴らしいと感じているが、アレルギー対応と給食費の無償化を同時に対応していただければと思う。

・アレルギーは何が多いのか。

→乳製品、卵、エビ・かに、そば、ピーナッツ、小麦が多い。施設の機能上、牛乳以外の代替食対応が困難なため、家庭での対応をお願いしている状況である。

・アレルギーを持つ児童・生徒が増えていると感じているが、原因はあるのか。

→分からないが、衛生環境が潔癖すぎると増えるのではないかと、という説もある。また、野菜などの外来種の影響もあるのではという説もある。

・アレルギーの問題については、必要な対応を引き続きお願いする。地産地消の取組やSDGsの取組などの食育教育を進めているが、今後の計画はどうか。

→現在取り組んでいることは、引き続き実施していく。来年度は、栄養教諭と話し合う場を学期に1回程度実施していきたい。また、地産地消については、生産者の高齢化が進んでいるので、新たな生産者を探していきたい。

・学校給食については、アレルギー対応の問題や施設の老朽化の問題、残された小学生の給食費無償化とあるが、総合的に考えていくので、皆さんの協力をお願いする。

【2】社会教育課

(1) 文化財常設展示施設の整備について【川田社会教育担当L】

[説明概要]

文化財常設展示施設の整備について、資料に基づき説明。文化財常設展示施設の整備については、上野原町時代からの課題であり、本年度は市役所庁舎展示室を活用し、一年を通じて地域やテーマごとにミニ展示を実施してきたところである。関心が関心を生む結果として、文化財常設展示施設の必要性が再認識されたところである。

このため、来年度から市役所文化ホール棟を活用した文化財常設展示施設の整備を進めていく。施設全体を生涯学習の複合拠点とする予定である。これまでの様々な場所を検討してきたが、夜間・休日の利用、交通などの利便性、展示に必要な環境、駐車場の確保などを考慮し、現在の教育委員会執務室及び会議室1を活用する。

[主な意見等]

・文化財常設展示施設については、子どもの学びの場として要望されてきた。今年度実施しているミニ展示を活かして、未来を担う子どものコミュニティの場でもあってほしい。

・ミニ展示会は大成功であったと思う。市民の皆さんからも非常に好評であった。こんなものが家にもあるという話をたくさん聞いている。今後も、こうした取組を広げていければと思う。

→山梨県の指導重点にも、郷土学習の推進という項目もある。秋山の無生大念仏についても、秋山の小中学生が興味を持っている。見える化していくことは大事であると感じた。かつては旧町民会館に資料展示室があり、子どもたちがそこを訪れて学習していた。それを思い出すが、そういう場所になれば良い。

・教育振興基本計画から考えると、すぐ近くに地域の文化財があるというのは、生涯を通じた学びの場に繋がるのではないかと思う。また、公民館の役割として集う、学ぶ、結ぶとあるが、文化財常設展示施設の整備により、そうした面も強化されると感じる。

・常設展示施設を整備・運営していくには、それ以上の保管庫が必要である。その辺の対応はどう考えているのか。

→現在平和中学校に保管してある文化財を、旧大目小学校にまとめ整理してい

く予定である。保管先となる旧大目小学校の校舎については、必要最小限の修繕を行っていく。管理体制は大事であると考えているが、人的体制については協議をしているところである。

・常設展示施設整備は、私の選挙公約のひとつである。着実に進んでいると感じている。様々な候補を見させていただいたが、それぞれ課題があった。施設整備がされたとしても、展示のみならず知識の継承や保管場所の整備については、引き続き協議をお願いする。

・公民館事業について、各地区公民館事業はどうなっているのか。

→公民館事業については制度が変更になり、旧来の公民館長は社会教育課長となっている。また、各地区の公民館事業については、別に主宰を設け、地区のまとめや企画・立案を行っている。今年度はコロナ禍のため、島田地区と秋山地区のみ実施している。

なお、来年度長野で開催される関東ブロック大会では、市の活動を発表する予定である。

(5) その他

なし